

カブトムシの上手な飼い方（おうちの人と一緒に読んでね）

<飼育に必要な用品>

■飼育ケース

市販されている飼育ケースでしたら基本的に大丈夫ですが、出来ればコバエ対策がされたケースの方が昆虫飼育にはおすすめです。また、カブトムシは動き回ることが多いので大きめのケースがおすすめです。

■成虫管理用マット(針葉樹マット)

飼育ケースには昆虫マットを敷きます。昆虫マットはカブトムシが潜って隠れる場所になったり、水分を含ませてケース内を保湿したりする重要な役割があります。少し湿る程度に霧吹きをして昆虫が潜れるくらいの深さに敷いてください。

■昆虫ゼリー

果実でも問題ありませんが、腐敗が早いのでゼリーの方が便利です。成虫向けのゼリーを活用ください。

■エサ台

カブトムシがゼリーをひっくり返してしまうのを防いだり、餌場や隠れ場になったりもします。

■転倒防止材

カブトムシはケース内をよく動き回るため、転んでひっくり返ります。足場がないとひっくり返ったまま、もがき続けて体力を消耗してしまいます。そのためケース内には転んでも足をひっかけて起き上がれるように、小さな木片などを置きます。



<飼育温度について>

■日本のカブトムシは基本的には室内の常温で飼育が可能です。直射日光の当たらない風通しの良い場所で飼育してください。

ただし、30℃を超える気温は避けてください。

■外国のカブトムシは温度管理が必要となります。

サタンオオカブトとネブチーンオオカブトは18℃～23℃、その他は20℃～25℃が適温となります。

特に冬場まで長生きをした場合は、温度管理を十分をお願い致します。

<日常の管理について>

準備ができましたらカブトムシをケースに入れてしばらく観察してみましよう。

転んでも自分でしっかりと起き上がれるか確認してください。エサのゼリーはある程度なくなったら早めに交換してあげるのが良いです。

特に夏場はあまり放置しておくとう腐敗したりします。そしてケース内が乾燥してきましたら霧吹きをして水分を調節してください。

あまり水浸しにしてしまうとケース内が蒸れてしまいますので、マット表面などが湿るくらいで大丈夫です。

エサをよく食べているかも観察してください。

<寿命について>

生き物ですので寿命があります。

天寿を全うしたカブトムシは土に還してあげてください。

※外国産のカブトムシは絶対に放さないでください！日本のカブトムシの産卵場や餌場を奪い採ってしまい、日本の在来種が絶滅してしまう恐れがあります！